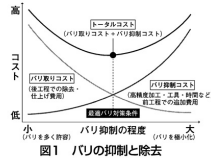


バリ取り・エッジ仕上げ



現場改善から
始めよう
金型加工に
バリ取りの自動化を
導入する

バリ取りの自動化は、現場改善から始めるのがポイント。金型加工のバリ取りは、従来は人手で行われていたが、自動化を導入することで、作業の効率化とコスト削減が期待できる。特に、金型加工のバリ取りは、作業の精度と安全性が求められるため、自動化の導入は非常に有効である。

バリ取りの自動化は、現場改善から始めるのがポイント。金型加工のバリ取りは、従来は人手で行われていたが、自動化を導入することで、作業の効率化とコスト削減が期待できる。特に、金型加工のバリ取りは、作業の精度と安全性が求められるため、自動化の導入は非常に有効である。

バリ取りの自動化は、現場改善から始めるのがポイント。金型加工のバリ取りは、従来は人手で行われていたが、自動化を導入することで、作業の効率化とコスト削減が期待できる。特に、金型加工のバリ取りは、作業の精度と安全性が求められるため、自動化の導入は非常に有効である。

仕上げ加工技術展 in 浜松

DSC協会は9月10、11の両日、浜松市総合産業展示館第3ホールで仕上げ加工技術展を開催する。「自動化は1社だけで完成させるものではない。多くの企業や専門会社と出会い、相談することから始まる」をコンセプトに、バリ取り・表面仕上げ・洗浄に関わる専門企業が一堂に集まり、先端工具・駆動機構・保持具・研削材、ロボットシステムなど、工程改善から自動化まで幅広い技術を紹介する。また、ロボットSierや、自動化を支える企業も出展。自社の課題について直接相談できる。

バリ取り自動化のヒント

バリ取り自動化を検討している企業は、まずは「何から始めればよいかわからない」という企業にとっても、自動化への第1歩となる。さらに、「第1回 バリ取り・マイスター認定試験・試験」を開催する。バリの生成メカニズムや抑制方法、ロボット活用、エッジ品質、各種バリ取り技術などを体系的に学び、認定試験に合格した技術者を「バリ取り・マイスター」として認定する。

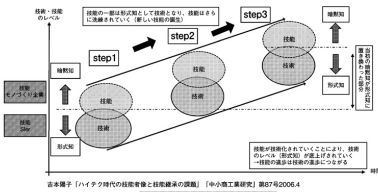


図2 技術と技術の相互スパイラル

技術と技術の相互スパイラル。自動化の導入は、技術の向上とコスト削減を同時に実現するための重要な手段である。特に、金型加工のバリ取りは、作業の精度と安全性が求められるため、自動化の導入は非常に有効である。また、自動化の導入は、作業の効率化とコスト削減が期待できる。特に、金型加工のバリ取りは、作業の精度と安全性が求められるため、自動化の導入は非常に有効である。

バリ取りの自動化は、現場改善から始めるのがポイント。金型加工のバリ取りは、従来は人手で行われていたが、自動化を導入することで、作業の効率化とコスト削減が期待できる。特に、金型加工のバリ取りは、作業の精度と安全性が求められるため、自動化の導入は非常に有効である。

バリ取りの自動化は、現場改善から始めるのがポイント。金型加工のバリ取りは、従来は人手で行われていたが、自動化を導入することで、作業の効率化とコスト削減が期待できる。特に、金型加工のバリ取りは、作業の精度と安全性が求められるため、自動化の導入は非常に有効である。



アラキエンジニアリング
代表取締役社長
DSC協会監事

荒木 弥